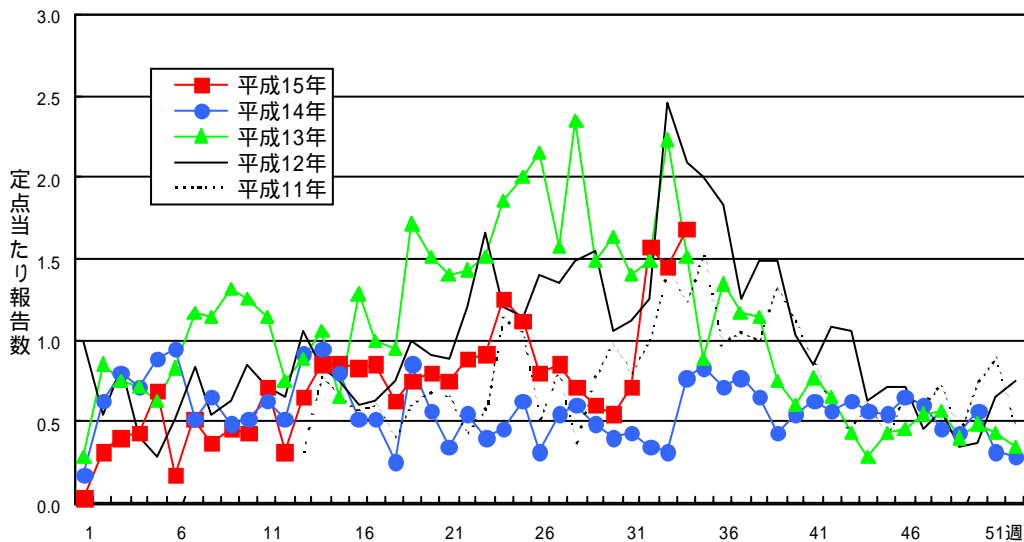


流行状況

流行性角結膜炎

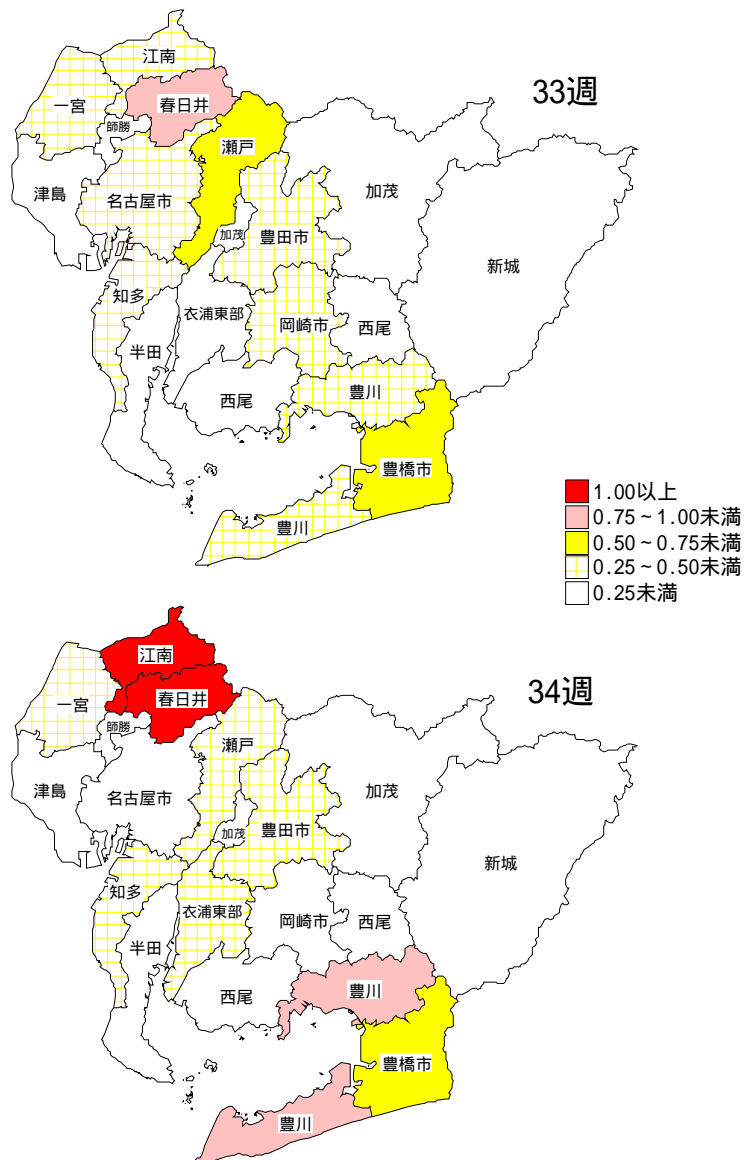


疾患名	前週	今週	備考
手足口病	1.6 ↓	1.3 ↓	夏かぜウイルスの飛沫、経口、水疱からの感染。口の中、手や足の先の水疱性発疹
流行性角結膜炎	1.5 ↓	1.7 ↑	眼結膜・角膜の炎症を主症状とするアデノウイルス感染症 (重症例では視力障害を残す)
ヘルパンギーナ	1.2 ↓	0.9 ↓	夏かぜの一つ。咽頭に赤いリングの小水疱と浅い潰瘍
咽頭結膜熱	0.34 ↓	0.33 ↓	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
→ 横ばい	↑ 増加	↓ 減少

感染症についての説明及びグラフ総覧については、
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

咽頭結膜熱の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



	34週	定点 当たり	33週	定点 当たり		34週	定点 当たり	33週	定点 当たり
名古屋市	14	0.20	25	0.36	岡崎市	0	0.00	3	0.43
瀬戸	3	0.33	5	0.56	衣浦東部	5	0.45	2	0.18
津島	0	0.00	0	0.00	西尾	1	0.20	1	0.20
師勝	0	0.00	0	0.00	豊田市	3	0.38	2	0.25
一宮	4	0.33	4	0.33	加茂	0	0.00	0	0.00
春日井	11	1.22	8	0.89	豊橋市	5	0.63	5	0.63
江南	6	1.00	2	0.33	豊川	6	0.75	3	0.38
半田	0	0.00	0	0.00	新城	0	0.00	0	0.00
知多	2	0.29	2	0.29					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる咽頭結膜熱の流行発生警報は保健所(市)定点当たり1.0人を越えた場合に発生し、0.1人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

黄色ブドウ球菌 3歳男、8歳女

病原性大腸菌O1 14歳男

病原性大腸菌O6 7歳女

病原性大腸菌O8 1歳女

病原性大腸菌O25 1歳男

暑さがもどると共にエンテロウイルス、アデノウイルス感染症再び増加しております。伝染性膿痂疹も増えてきました。

【尾西市 城後小児科】

6歳男 細菌性腸炎 サルモネラO4群

【一宮市 あさのこどもクリニック】

アデノウイルス感染症 3歳女

【一宮市 平谷小児科】

エロモナス キャビエ*1 2歳男

サルモネラO4 1歳男

【犬山市 武内医院】

*1 エロモナス キャビエ：下痢を起こす原因菌のひとつ

手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、減少してきています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

突発性発疹が目立ちます。手足口病がややおちついてきました。

無菌性髄膜炎 2例

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

4歳男 10歳女 マイコプラズマ肺炎

【春日町 丹羽医院】

34歳男 チャンピロバクター

【師勝町 師勝クリニック】

10歳男 3歳女 マイコプラズマ肺炎

【師勝町 田中クリニック】

尾張東部地区

流行性耳下腺炎多く、9名。うち3名はワクチン接種済（4歳男、6歳女、10歳男）

カンピロバクター腸炎+病原大腸菌O25 11歳女

マイコプラズマ肺炎 9歳男

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

ヘルパンギーナ、手足口病共にほとんどみられなくなりました。

溶連菌感染症、流行性耳下腺炎再び増加傾向です。

その他、伝染性紅斑、水痘散発

相変わらずマイコプラズマ肺炎が多くみられます。

【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】

75歳女 病原大腸菌O18感染症 ベロ毒素検査中

【豊明市 豊明団地診療所】

手足口病、ヘルパンギーナ、水痘、ムンプス減ってます。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

咽頭結膜炎、ヘルパンギーナ、ムンプスがみられました。

【春日井市 かがわ北病院】

アデノ感染多い。

手足口病減る。

【小牧市 小牧市民病院】

伝染性紅斑が多くなってきました。

【春日井市 鈴木小児科】

手足口病 ヘルパンギーナまた増えてきました

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

7歳女 病原大腸菌O18(+)ペロ毒素(-)

0歳7ヶ月女 帯状疱疹1か月のときに水痘罹患

6歳女 カンピロバクター(+)

2歳男 カンピロバクター(+)

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

4か月女 サルモネラ腸炎

【豊田市 すくすくこどもクリニック】

3歳女、4歳男、7歳女 イムノカードSTアデノウイルス(+)

4歳女 カンピロバクター+病原大腸菌(O143)

3歳女 カンピロバクター腸炎

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

4歳男 流行性角結膜炎

【岡崎市 花田こどもクリニック】

SSSS(ブドウ球菌性熱傷用皮膚症候群) 1歳女

3歳男 病原性大腸菌 O18

【岡崎市 深田小児科医院】

12歳男 マイコプラズマ肺炎

4歳男 病原性大腸菌 O18

14歳男 カンピロバクター

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

アデノ感染4名、伝染性膿痂疹が多数

【知立市 宮谷クリニック】

ヘルパンギーナが増えてきました。

【西尾市 やすい小児科】

10ヶ月男 病原性大腸菌 O25 VT(-)

6歳女 病原性大腸菌 O1 VT(-)、カンピロバクター(+)

【西尾市 宮地医院】

手足口病が、まだ流行中です。

【三好町 三好町民病院】

東三河地区

マイコプラズマ肺炎 2 名 (3 歳女、1 歳女)

【豊橋市 野村小児科】

10 ヲ月男 麻疹

3 歳男 11 歳男 カピロバクター

1 歳男 病原性大腸菌 O166

4 歳男 5 歳女 サルモネラ O4

2 歳男 サルモネラ O9 (同じ卵で父も下痢)

【豊橋市 大谷小児科】

3 歳女 E.coli O26 VT1(-)、VT2(-)

【蒲郡市 蒲郡市民病院】

1 ~ 3 類感染症の発生状況 - 愛知県 (名古屋市を除く。) -

発生報告なし

全数把握の 4 類感染症の発生状況 - 愛知県 (名古屋市を除く。) -

急性ウイルス性肝炎 1 例 B 型 (推定感染地域 : 国内)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

溜息と共に薄ら寒い夏休みがもう終わろうとしています。最初は汗を拭きながら頑張って仕事をする予定でしたが、デレツとしているうちに日数だけが過ぎてしまいました。

以前は小児科の外来でよく言ったものです。「宿題、済んだか」。自らを叱咤激励しなくては。いつも貴重な情報を有難うございます。8月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはヘルパンギ - ナと手足口病に加えてウイルス性胃腸炎患者が多く、これらの重症の要入院例と無菌性髄膜炎が目立ちマイコプラズマ肺炎もまだある、第一日赤松山先生からはヘルパンギ - ナ、手足口病、水痘、無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎が目立つ、城北病院渡辺先生からは感染症激減、時間外患者も減り膿痂疹が散見、マイコプラズマ感染症がまだ多い、第二日赤岩佐先生からは腸炎（ウイルス性、細菌性）が多く要入院例が目立つ、千種区今枝先生からは感染性胃腸炎、伝染性紅斑、ヘルパンギ - ナ、ムンプス各1例、伝染性膿痂疹数例あり、三菱病院入山先生からは特に目立った傾向はないがヘルパンギ - ナ（要入院1例）、感染性腸炎（カンピロ、病原性大腸菌O - 25）マイコプラズマを含む肺炎あり、中京病院柴田先生からは手足口病増加、労災病院山田先生からは水痘、マイコプラズマ肺炎（喘息の併発が多い）、伝染性膿痂疹、ヘルパンギ - ナ、RSウイルス感染症、仮性クル - プが目立つ、大同病院水野先生からは今年は夏カゼが少なく落ち着いている、マイコプラズマ肺炎とサルモネラ腸炎などの入院ありとのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎（サルモネラ、カンピロバクタ - 腸炎を含む）が目立ち、水痘と手足口病、伝染性紅斑がそれぞれ散発中、江南市昭和病院小児科からはヘルパンギ - ナと入院ではアデノウイルス感染症が目立つ、常滑市民病院上田先生からはムンプス、ヘルパンギ - ナ、細菌性腸炎（サルモネラ、カンピロバクタ - ）、手足口病、ムンプス髄膜炎、ヘルペス口内炎が目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：加茂病院梶田先生からはヘルパンギ - ナ、手足口病（髄膜炎合併1例）、プ - ル熱が多く涼しいせいか喘息の入院が多くアデノウイルス陽性の扁桃炎・咽頭炎、マイコプラズマ肺炎が多く無菌性髄膜炎は今年は少ない、髄膜炎入院例あり、知立市近藤先生からは手足口病はやや減少、咽頭結膜熱2例、サルモネラ腸炎1例、刈谷市田和先生からは手足口病と水痘、感染性胃腸炎がパラパラ、豊橋市からは手足口病、咽頭結膜熱、水痘、カンピロバクタ - 腸炎など（長屋先生、宮澤先生）が目立つ、とのお手紙でした。
有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

2003年8月1日(78巻31号)

コレラ：2002年の世界のコレラ。世界各地からコレラ(エルト-ル型)の届出が続いている。02年では52カ国から公式に報告があり、142,311例(死亡4,564)。死亡例数は前年と重複しているらしく増加している。罹患率死亡率は3.95%(ハイリスク地区では30%)、01年に南アフリカで多発したがアフリカ全体としては02年は増加(例数はアフリカ諸国が137,866例で世界の97%)、世界全体では01年より02年はやや減少しているが報告の精度に問題が多いのが実情である(コレラ報告の世界地図が添付、空白地帯が多い)。多発地区はコンゴ、マラウィ、タンザニア、モザンビーク、南アフリカなどアフリカ地区が多く、その他インド、イラク、ペル-が目立っている。予防法として経口コレラワクチンが開発され、現在までに3種類のワクチンが認可され安全性、有効性共に優秀で世界数カ国でハイリスク集団の予防に使用されている。一つは不活化全菌体成分とB-コレラトキソイドのリコンビナント製品で、バングラデシュ、ペル-、スウェ-デンで安全性良好、予防効果は接種後6ヵ月で85-90%。ベトナムでは不活化全菌体ワクチンが使用されている。これとは別に変異株による弱毒生ワクチンの開発も進められ対照試験が数カ国で実施中である。今後経口コレラワクチンがコレラ常在地区や流行地区の住民、旅行者を対象に接種されることを希望したい。(WHOの報告や出版物などのウェブ一覧表あり)。

2003年8月8日(78巻32号)

ワクチン安全性：安全性に関する委員会の結果と勧告。1999年、ワクチンの安全性に関する委員会が発足、本年6月16-18日にWHO本部で第4回の会議が開催、以下はその概略である。ワクチンの安全性に関する総合的調査研究が最優先されるべきである。03-05年に総合的調査が段階的に各地区で実施され、問題のある地区に重点的支援が実施。

将来計画の立案と実施：ディスプレイ器材の普及、知識普及教育と国際的な情報交換、医療従事者の安全性確保が重要である。

ワクチン副作用に関する委員会。本年6月11-12日、WHOで開催。話題となったのは、ムンプスワクチン：委員会としては接種を勧める。無菌性髄膜炎についてはさらに詳細なウイルス学的・遺伝子学的研究が必要であり株の保管管理が重要であるが、これまで Jeryl-Lynn 株では報告がなく、Urabe 株やレニングラ-ド・ザグレブ株、レニングラ-ド3株の報告はまちまちであるが発生率は低く、後遺症もない。種痘：小児に接種した場合の副作用が問題となり最近の論文について討議された。重症の副作用が発生する場合も予測されるので集団接種(特に免疫不全状態とかHIV多発地区)ににあたっては、接種後の監視網確立が急務である。免疫不全状態の児に対するBCG接種：HIV感染児などでBCGの重症皮膚合併症や全身感染が接種後早期~数年後に発病することが報告されている。発生状況は不変でワクチン接種計画も不変であり、BCG接種を受けたHIV陽性の観察は短くとも5-7年間は維持すべきだとしている。添加物としてのチメロサル：報告不十分。WHOとしては監視継続の方針。

ポリオ。インドの集団発生と生ワクチン。因果関係の詳細を調査中。

第32週(15年8月4日~8月11日)の4類感染症 (全国)

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は微減したが、過去10年間の当該週と比較して本年第16週以降最高の値で推移している。都道府県別では大分県(2.1)、愛媛県(1.6)、長野県(1.5)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少したが、過去10年間の当該週と比較して27週以降最高の値となっている。都道府県別では、鳥取県(1.4)、富山県(1.3)、宮崎県(1.2)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は減少したが、過去10年間の当該週と比較して最高の値となっている。都道府県別では宮崎県(5.4)、鳥取県(5.3)、福井県(4.6)が多い。手足口病の定点当たり報告数は減少したが、過去10年間の当該週と比較して最高の値となっている。都道府県別では山口県(8.6)、青森県(8.4)、愛媛県(7.9)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は減少したが、過去10年間の当該週と比較して最高の値となっている。都道府県別では福島県(8.5)、長野県(7.3)が多い。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少して0.18で、過去4年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では沖縄県(0.9)、大阪府(0.7)、岩手県(0.6)が多い。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は減少して0.18で、都道府県別では奈良県(1.0)、鳥取県(0.8)、石川県(0.6)が多い。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センター - のホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県感染症情報

2003年第1週～第34週(平成14年12月30日～平成15年8月24日)(累計)

愛知県衛生研究所

		定点数																									
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎*	感染性胃腸炎*	水痘*	手足口病*	伝染性紅斑*	突発性発疹*	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ*	麻疹	流行性耳下腺炎*	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
愛知県 (名古屋市を含む)		191	182	35	51	13	47,885	1,247	6,730	26,141	11,153	9,529	1,393	4,379	49	50	5,826	139	3,978	30	872	1	5	9	128	0	4
愛知県 総数 (名古屋市は除く)		121	112	24	37	12	38,580	905	4,874	17,920	8,940	8,136	1,121	3,510	39	31	4,162	106	3,185	25	625	1	5	8	124	0	4
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	9,305	342	1,856	8,221	2,213	1,393	272	869	10	19	1,664	33	793	5	247			1	4		
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	2,755	63	784	1,091	416	179	26	204	4	1	454	6	368	1	35						
海部津島	津島	7	7	2	2	1	1,341	46	89	1,265	484	858	62	167	1		223	2	138	1	24				10		
尾張中部	師勝	4	4	1	1		1,378	10	119	1,082	134	156	19	86		5	373	1	123		10						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	2,712	34	352	2,234	727	752	122	398	6	1	295	2	222	1	24			1			
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	4,291	86	380	1,195	597	678	162	297	3	4	418	7	284	1	60	1	2	2			1
	江南	6	6	1	2		1,520	44	297	1,675	527	679	85	263	1	1	188		99		41						
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1,915	17	174	660	204	106	32	191		1	147	1	200		13		1		10		2
	知多	7	7	2	2		2,364	101	438	1,193	609	324	63	251		1	304	28	98	2	30						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	4,159	30	301	204	907	522	133	419	7		304	1	484	3	65						
	衣浦東部	11	11	2	4	1	5,878	61	394	1,171	1,102	842	106	318	4	1	339	13	580		82			2	7		
	西尾	5	5	1	2	1	1,190	14	221	627	423	304	79	141	1	2	127	10	148		47			1	6		1
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1	2,409	76	231	1,168	804	370	57	216	9	11	303	8	241	7	89			2	33		
	加茂	3	3		1		489	15	200	402	137	133	9	44		3	76		42								
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1	3,088	213	569	2,436	818	1,087	93	293	1		297	17	38	7	61		2		29		
	豊川	9	8	1	2	1	2,839	95	323	1,517	1,000	1,103	73	203	2		312	7	99	2	44				29		
東三河北部	新城	2	2			1	252		2		51	43		19			2	3	21								

* 岡崎市から33週分の追加報告あり

愛知県感染症情報

2003年第1週～第34週(平成14年12月30日～平成15年8月24日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎*	感染性胃腸炎*	水痘*	手足口病*	伝染性紅斑*	突発性発疹*	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ*	麻疹	流行性耳下腺炎*	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹	
計	38,580	905	4,874	17,920	8,940	8,136	1,121	3,510	39	31	4,162	106	3,185	25	625	1	5	8	124	0	4	
～6ヶ月	518	5	11	205	226	69	7	291	6		63	2	2		2							
～12ヶ月	1,096	28	25	1,138	535	387	41	2,135	9	2	388	22	19		12							
0歳																	1		1			
1歳	3,227	145	118	2,759	1,593	1,461	61	1,002	7	4	1,027	23	146		18				12			
2歳	3,245	141	280	2,054	1,510	1,422	95	66	3	2	782	7	241	1	16				12			
3歳	3,321	143	608	2,018	1,661	1,556	118	6	3	1	739	6	489	2	19				12			
4歳	3,516	131	912	1,778	1,587	1,368	154	1	4	3	495	7	638		11				9			
5歳	2,262	122	923	1,384	968	900	175	1	2	5	350	3	630	1	17							
6歳	1,825	60	702	1,018	398	420	158	4			138	7	377		3							
7歳	1,466	45	403	801	160	190	95		1	4	63	2	214		6							
8歳	1,304	34	285	647	107	122	89	3	1	3	28	3	148	1	7							
9歳	1,336	14	159	506	57	57	38			1	33	2	80		4							
5歳～9歳																		2	30			
10歳～14歳	4,859	14	217	1,149	86	79	67	1	2	2	26	16	126	1	24				20			
15歳～19歳	1,573	3	20	311	8	7	1				7	3	12		28			1	3			
20歳～		20	211	2,152	44	98	22		1	4	23	3	63			1	4					
20歳～29歳	2,768													9	102			2	7			2
30歳～39歳	3,054													1	128			1	7			1
40歳～49歳	1,182													2	63			2	4			1
50歳～59歳	892													3	82				1			
60歳～69歳	597													1	47				2			
70歳～														3	36							
70歳～79歳	352																		3			
80歳以上	187																		1			

* 岡崎市から33週分の追加報告あり